

第七章 結論

以上述べ來リタル事ヲ綜合スレバ(一)渡島山脈ノ基礎ヲ形成スル岩石ハ古生界ノ水成岩ニシテ其等ハ甚シキ動力的變質ヲ受ケテ片岩質ヲ呈スルニ至リタル部分少カラズ(二)中生代ノ岩石ハ此地方ニハ痕跡モ認ル事能ハズ即此地方ハ中生代ニハ全ク陸トシテ存在シ削剝作用其働キヲ逞フセリ(三)第三紀時代ニハ此地方ハ再ビ海底ニ沈ミ種々ノ海成層ヲ堆積セリ而シテ此時代ニ海中火山ノ噴出アリタリ、狗神岳及ビ角礫質凝灰岩等ハ其ノ結果ナリ(四)第三紀水成岩沈澱ノ後此地方ハ再ビ造山力ノ爲メニ陸トナリ褶曲ヲ受ケ斷層ヲ生ジ相次デ種々ノ火山岩ノ噴出ヲ引起セリ即チ流紋岩先ヅ出現シ、種々ノ富士岩相次デ噴出セリ(五)以上ノ變動ハ第三紀ニ起リタルガ次ニ海岸段丘成生ノ時代トナレリ(洪積期?)此時代ノ海ハ今日ノ渡島山脈ノ周邊ヲ限リテ現今見ル段丘高原ノ部分全體ニ廣ガリ居タルナリ、而シテ駒ヶ岳火山ノ出現ハ此時代ニ始マリタルモノニシテ其活動ニ伴ヒシ物質ノ噴出ハ沖積期時代迄盛ニ行ハレタルモノナリ。

茲ニ殘レル問題ハ駒ヶ岳火山ノ地質構造上ノ位置ナリ以下少シク此問題ニ就テ論ゼントス。

ホップス氏ハ先年以太利南部ノ地質構造ヲ研究シテ所謂地質構造線ヲ三種ニ區分セリ、一、本來ノ地質構造線 (geotectonic line proper) 二、火山ノ噴出口ヲ連續シテ得ル火山斷層線 (vulcanotectonic line) 三、地震斷層線 (seismotectonic line) 此レナリ (Hobbs: The Geotectonic and Geodynamic Aspects of Calabria and Northeastern Sicily, 1907, p. 352) 尙同氏ハ同地ノ火山ノ噴出口ヲ連結シテ多クノ火山斷層線ヲ想像シ、地圖上ニ於テ多クノ火山(例ヘバ「ブルカノ」(火)「山」リ「バリ」(火)出等)ハ此等火山斷層線ノ交叉點ニ存在スルコトヲ證明セリ、氏ノ曰ク「火山ノ成立ハ種々ノ異レル方向ノ地盤裂罅ガ交叉スル點ニ存在スル事ハジユース教授其他ノ學者ニヨリテ承認セラレタル論ニシテ近時「フエリックス」氏及ビ「レンク」氏ノ「メキシコ」國ニ於ケル火山ノ配列ニ關スル論文ニヨリテ有力ナル説明ヲ得タリ、即チ同國ノ高原ノ邊端ニ沿フテ並列スル火山ハ凡テ南北ノ斷層線ト東西ノ斷層線トノ交叉點ニ存在セリ云々」ト。

ホップス氏ニ先チテ千九百二年ベルグアート氏 (A. Bergart: Stibbel's Untersuchungen ueber die Eruptionen in Suedamerika. Centralbl. f. Min. etc, 1902, S. 722) ハ南米太平洋岸ノ火山列ハ所謂地盤碎裂帶 (Zerüttungszone) ニ沿フテ噴出シタリトノ考ヘヲ公表シ、尙先ニハ千八百九十九年ニ氏ノ伊

太利火山島ノ研究ノ結果トシテ此等火山島ハ放射狀地盤碎裂帶ノ上ニアリテ火山成立ハ此等碎裂帶ノ交叉點ニアル事ヲ説キタル事アリ。

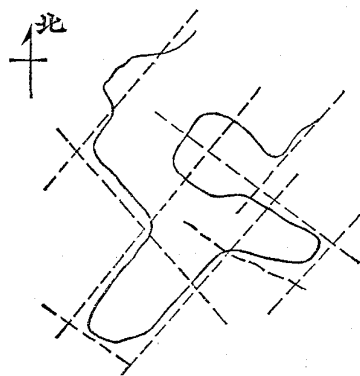
要スルニ火山活動ノ中心ハ異種類ノ地質構造線ノ交叉點ニアリトハ現今一般ニ承認セラル、學說ニシテ駒ヶ岳火山ノ場合ニ於テモ此說ヲ確メル多クノ事實ヲ認メ得ベシ以下順ヲ追フテ論ゼントス。

(イ) 海岸線ト地質構造線 此地方ノ海岸線ハ地質構造ト密接ナル關係アルモノナリ。

先ヅ南ノ海岸線ハ北海道ト本道トノ地形上ノ縁ヲ絶チシ津輕海峽ノ陷落地帯ニ面スルモノニシテ(此陷落ハ必ズヤ第三紀ノ終リニ起リシモノナリ何トナレバ其海岸線ヲ畫スル海岸段丘ハ陷落後其海岸ノ椽邊ニ洪積期時代ノ海ニヨリテ形成セラレシモノナレバナリ)此海岸線ハ實ニ其陷落線ヲ代表スルモノト考ヘラル。

同様ニ此地方ノ東北面ノ海岸線モ亦噴火灣生成ノ原因トナリシ陷落ノ地質構造線ト密接ノ關係アル事ヲ推察シ得ベシ。斯クノ如キ考ヲ以テ北海道ノ地圖ヲ披キ見レバ、其西南部ハ西―北東南及ビ東北―西南ノ二方向ニ走ル二種類ノ地質構造線ニヨリ外廓ヲ形ツクラルルヲ見ル次ニ示ス略圖ハ海岸線ト

地質構造線トノ關係ヲ示スモノナリ。



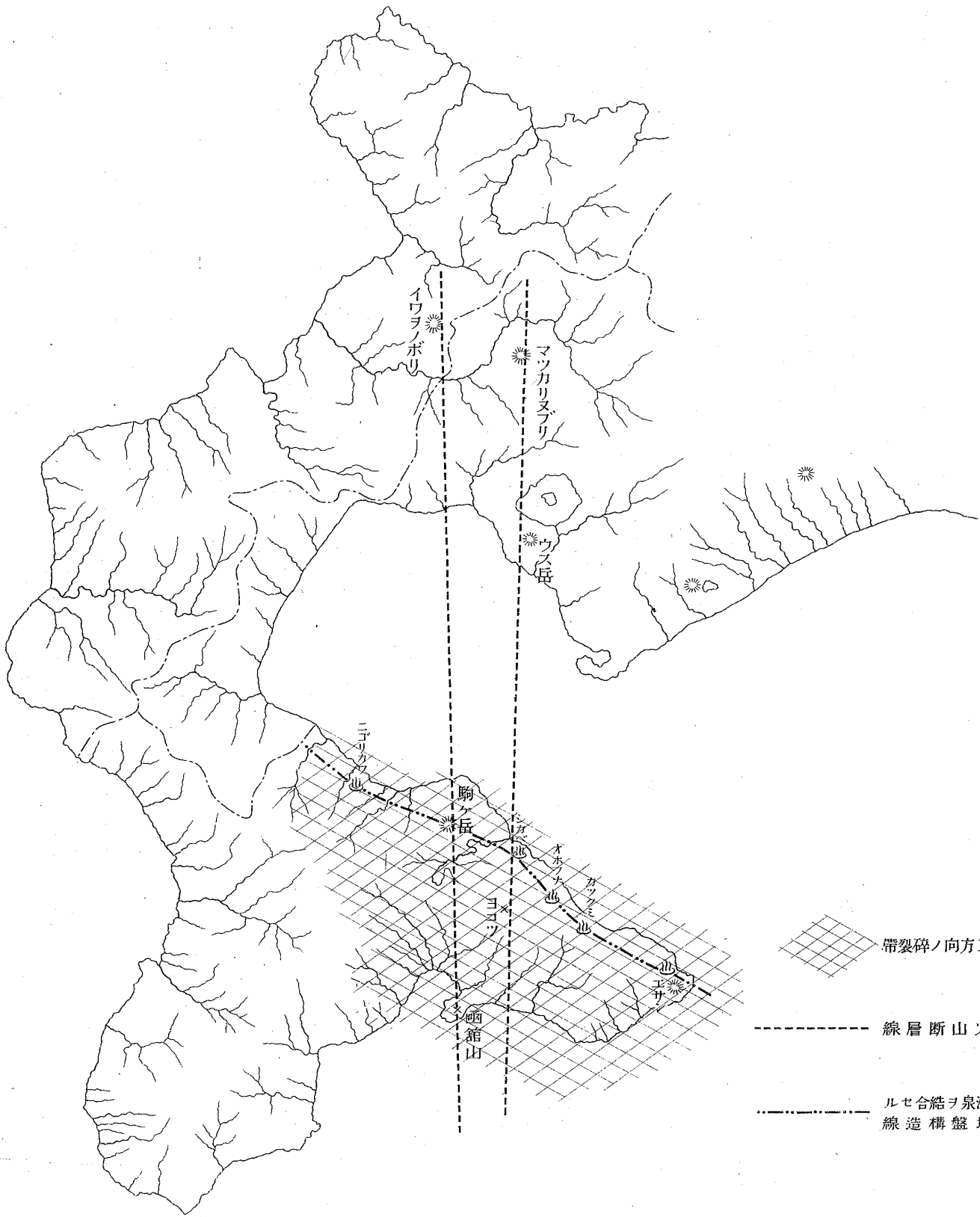
(ロ) 地盤碎裂帶及ビ火山斷層線 前述ノ如ク北海道ノ西南部ノ外廓ヲ形ツクル海岸線ハ重ナル地質構造線ノ代表者ト見ルベキモノナルガ此等平行ノ構造線ノ間ニ存在スル碎裂帶モ稍、明カニ認メ得ベシ。

此地方ニ於ケル流紋岩及富士岩等ノ新火成岩ノ分布ノ有様ヲ見レバ明ニ此等岩石ガ西北―東南ノ地體構造線ニ平行ナル碎裂帶ノ斷層線ヲ通シテ相次デ噴出セル事ヲ想像シ得ラル、又此地方ノ河流ヲ見ルニ東北斜面ニ於テハ濁川、桂川、鳥崎川、木直川等悉ク平行シテ東北方ニ流レ西南斜面ニ於テハ汐泊川、松倉川等多ク西南方ニ平行シテ流ル、此等河流ノ方向ハ恐ラク此方向ノ碎裂帶ト密接ノ關係アルベシ、尙此他ニ此地方ニ於ケル温泉ノ配列ハ此地方ノ碎裂帶ト直接ノ關係アルガ如シ即チ河汲温泉、大舟温泉、磯谷温泉、鹿部温泉、濁川温泉等ハ凡テ東北海岸ニ近ク存在シ且悉ク多少ノ硫化水素ヲ含ム。鳥崎川ノ上流ニアル鳥崎ノ瀑布ガ斷層ノ爲メニ生ジタルモノナラントハ已ニ提示シタリ、而シテ此斷層モ殆ンド海岸ニ平

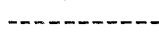
行ニ走ル、此瀑布ノ下ニ露出スル橄欖石ヲ含マザル玄武岩
(富士山式ノ岩石)ノ岩脈モ此斷層線ニ沿フテ噴出セシモノナリ。

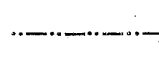
終ニ臨ミ火山斷層線ヲ考ヘザルベカラズ、元來北日本ニ於テ
ハ火山ハ皆殆ンド南北ノ火山斷層線上ニ排列セラレ此等ニ
那須火山脈、鳥海火山脈等ノ名與ヘラレタリ、斯ル南北ノ火
山斷層線ハ北海道迄モ引續クモノ、如シ、例ヘバ函館山、駒
ヶ岳、「イワヲノボリ」等ノ諸火山ヲ結合スル線ト横津岳、有
珠山、「マツカリヌプリ」(蝦夷富士)等ヲ結合スル線ハ皆南北ニ走
ルヲ見ル。

次ノ圖ニ示スガ如ク今假ニ此地方ノ地體構造線及ビ其間ノ碎
裂帶、並ビニ溫泉ヲ結合セル線、火山斷層線ヲ地圖上ニ書キ
入ル、時ハ次ノ結論ニ達スル事ヲ得ベシ、曰ク駒ヶ岳火山惠
山、火山等ノ噴出中心ハ實ニ此等諸種ノ地體構造線ノ交叉點ニ
存在スルモノナリ。



 帯裂碎ノ向方二

 線層断山火

 ルセ合結ヲ泉温
 線造構盤地

●登山ノ葉

駒ヶ岳火山ハ甚ダ便利ナル地點ニアルノミナラズ眺望ノ佳絶ナルト登山ノ容易ナル事トノ特色ヲ有ス。

駒ヶ岳驛ヨリ登山セントスル人ハ同驛ニテ汽車ヲ下リ、東ニ進ム事數丁ニシテ函館、森村間ノ本道ニ合シ（宿野邊ノ村落此邊ニアリ）、此本道ヲ東南ニ進ム事約十丁ニシテ字燒山ノ村落ニ出ヅ、登山スルニハ此處ヨリ東ニ向テ分ル、徑道ヲ辿ラザルベカラズ、此邊ハ凡テ駒ヶ岳ノ噴出物タル浮石質砂礫ニヨリテ覆ハレ土地豐饒ナラズ。

燒山ヨリ分レテ東ニ進メバ徑路ハ或ハ灌木密生ノ間ヲ縫ヒ或ハ茅草ノ原ニ通ズ、緩キ勾配ヲ以テ浮石質砂礫ヲ踏ミツ、行クコト約一里ニシテ路ハ火口ヨリ南方ニ流レタル浮石質大泥流（馬ノ背泥流）ノ上ニ登ル、此砂礫ト泥流トノ境ハ甚ダ明瞭ニシテ初學ノ人ニモ地形上其區別ヲナシ得ベシ、且泥流上ニハ大ナル樹木ナク唯僅カニ「ガンピ」「ドロ」ノ小木疎生シ草木ノ生ゼザル部分甚ダ廣シ。

泥流上ニ登リテ尙東ニ進ムコト數丁ニシテ凹地ニ入ル白蛇澤是レナリ、登山道ハ此白蛇澤ノ凹地ニ沿フテ上リ勾配ハ漸ク急トナリテ馬ノ背ニ達シ得ベシ而シテ其途中海拔約五百五十「メ」ノ地點ニ所謂物見臺ナル場所アリ（泥流ノ上ニシテ眺望絶佳ノ地）大沼小

沼ヲ始メ駒ヶ岳南麓ノ地形ヲ展望シ得ベシ、此地ヨリ上ハ全ク樹木ヲ缺キ泥流ヲ形クル浮石質砂礫碌々トシテ山面ヲ覆ヒ一定セル道路ナキモ隨意ニ馬ノ背ヲ目掛ケテ登リ行クモノニシテ其傾斜ハ約二十五度ナリ、馬ノ背ニ登レバ頂上ノ火口、馬蹄形火口ハ一望ノ中ニアリテ其風景壯絶ナリ、砂原岳ノ頂上（此處に三角點アリ）及ビ駒ヶ岳ノ尖峰ニ登ルニハ一度火口底ニ下リテ更ニ地質圖（頂上附近地形地質圖）ニ記サレタル箇處ヨリ登ルコトヲ得レドモ勾配甚急ニシテ岩角ヲ攀ヂ危險ヲ冒サザルベカラズ。

大沼ノ東北端銚子口ヨリ登山スルニハ船ニテ銚子口迄行クヲ便トス、此處ニハ湖畔ニ小徑アリテ北ニ向テ山ヲ登ルベシ、此徑路ニモ大樹林少ク諸處ニ灌木ノ密生スルアレドモ、海拔三百「メ」以上ニ至レバ眺望ヲ妨グル樹木ナク浮石質泥流上ヲ歩ミ、赤禿山ノ西麓ヲ過ギテ隅田盛ノ下ニ達シ得ベシ而シテ此處ヨリハ隅田盛ノ東ヲ廻リテ馬蹄形火口ノ中ニ入ルヲ得ベク又西ヲ廻リテ馬ノ背ニ達スルコトヲ得ベシ。

留ノ湯附近ヨリ登山スルニハ大沼停車場ヨリ鹿部街道ヲ東ニ進ム事約二里ニシテ留ノ湯温泉ノ手前數丁ニテ折戸川ニ架セル橋ヲ渡リ西北ノ方向駒ヶ岳ニ向テ通ズル小徑ヲ辿ルベシ、此路モ同ジク泥流上ヲ通ズルモノニシテ大樹林少ク、登ルニ

從テ全ク樹木ヲ見ザルニ至リ、赤禿山ノ東ヲ通リテ隅田盛ノ東方馬蹄形火口壁ニ達スルヲ得ベシ、而シテ此處ヨリハ馬蹄形火口中ニ入り「クリミ坂」ヲ上リテ頂上ノ火口ニ至ルヲ便トス。

以上ハ婦女子ト雖登リ得ル路ニシテ山麓ヨリ二時間乃至三時間ニシテ頂上ノ火口ニ達シ得ベシ。

若シ夫レ登山ニ熟達セシ人士ナレバ何レノ放射谷ヲ沂リテモ頂上ニ達スルコトヲ得ベシ而シテ最モ興味アルハ押出シ澤(掛澗ノ)ヲ登ル事ナリ、即尾白内村或ハ森村ヨリ畑道ヲ辿リテ押出シノ澤(常時水涸レ澤ナリ)ニ入り澤ヲ傳ハリテ進メバ海拔約四百「メ」ノ箇處迄ハ甚ダ緩キ勾配ヲ以テ上レドモ其地點ヨリ駒ノ背迄高距約五百「メ」ヲ僅カニ數丁ノ距離ヲ以テ登ラザルベカラザルガ故ニ勾配甚ダ急ニシテ岩角ニ頼リ匍腹シテ漸ク攀チ上リ得ルナリ。

● 圖 解

第一版 第一圖ハ噴火灣ノ海岸森村石倉村間ニ發達スル海岸段丘ノ圖ナリ。

第二圖ハ丸山頂上ヨリ椴山及ビ惠山ヲ望ム圖ニシテ惠山ノ頂上ヨリ前ニ開ク大穴ハ舊火口ニシテ此部分ニ二個ノ爆裂火口アリテ其處ヨリ盛ニ硫氣ヲ

噴出シツ、アリ。

第二版 第一圖ハ噴火口灣ニ注ク桂川ノ上流ニアル三階瀧ナリ「ヤベツ」式富士岩ノ終點ニ懸ル、板狀節理明ニ發達ス。

第二圖ハ鳥崎川上流鳥崎ノ瀧ナリ第三紀泥板岩ノ斷崖ニ懸ル。

第三版 第一圖ハ噴火灣ノ岸、森村ヨリ東方ニ駒ヶ岳火山ヲ望ム圖ナリ中央ノ凹處ハ押出澤爆裂火口ニシテ其兩側ニ對稱的ニ駒ヶ岳及ビ砂原岳ノ尖峰屹立ス砂原岳ヨリ續キテ唯一ノ寄生火山、掛澗ノ圓山ヲ見得ベシ。

第二圖ハ大沼ヲ隔テ、駒ヶ岳火山ヲ見ル圖ナリ駒ヶ岳尖峰、隅田盛、砂原岳ニ圍マレテ中央ノ橢圓形火口アリ右方ニ續ク赤禿山、黒峰等ハ泥流ノ堆積丘ナリ。

第四版 第一圖ハ砂原村沖合ヨリ南ニ砂原岳ヲ望ム圖ナリ此方面ハ爆裂ノ爲メニ形ヲ破ラル、コトナカリシヲ以テ不完全ナル富士形ヲ存ス。

第二圖ハ出來澗岬附近ヨリ西ニ駒ヶ岳ヲ望ミタル圖ニシテ頂上ノ橢圓形火口ノ外ニ東方ニ開ク馬蹄